

第6回 津山市教育振興基本計画検討委員会 会議録【概要版】

○日時 令和3年12月20日（月）13:30～15:04

○場所 津山市役所 202会議室

○出席者

- ・津山市教育振興基本計画検討委員 8名
 - 委員長 住野好久（中国学園大学・中国短期大学副学長）
 - 副委員長 須江健治（株式会社すえ木工代表取締役社長）
 - 委員 寺元貴幸（津山工業高等専門学校教授）
 - 櫛田晃稜（津山市PTA連合会会長）
 - 仁木かおり（津山教育事務所指導主事）
 - 北山浩二（津山市立中学校長会長）
 - 小池尚（津山市立小学校長会長）
 - 矢野佳子（津山市立幼稚園長会長）
- ・事務局 教育長、教育委員会関係部課長等 10名
- ・傍聴 3名

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 前回委員会会議録の承認

一 全員賛成 承認

4. 議事

（1）前回委員会でのご意見等について

（事務局説明）

- ・前回の検討委員会でいただいたご意見、ご質問に対する考え方及びご指摘を受け対応した部分を説明。

【第3章】

- ・幼稚園・小中学校施設整備
- ・安全安心対策
- ・教職員の働き方改革
- ・学校給食費の公会計化及び学校事務の効率化
- ・教育委員会活動の活性化

【第4章】

- ・進捗状況の点検と計画の見直し

(委員からの意見)

- ・教育委員会活動の情報発信は、学校だけではなく保育園や幼稚園、関係期間や団体とも連携して色々なチャンネルからより多くの方の目に触れるような、発信力を高める取組を進めてほしい。

(2) 計画全体を通してのご意見

(事務局説明)

- ・各課から特に共有しておいた方がよい成果及び課題を説明

(こども保育課)

- ・幼児教育の質の向上に引き続き取り組んでいくこと、特別支援教育を充実させること、保幼小連携に課題が残っていることを第2期計画の総括とし、第3期計画でこれらに力を入れていく。

(教育総務課)

- ・ICT関係について、授業での効果的な活用方策と市内小中学校への展開の必要性を記載するとともに、今後の方向性として、環境整備を進める。
- ・学校施設の長寿命化方針のもと、第3期計画においても、引き続き設備を含めた改修に取り組み、時代のニーズにあった安心安全な学校施設にしていきたい。

(学校教育課)

- ・ICTを活用した授業改善、学力向上（特に読解力の育成）を課題とし、第3期計画ではこれらに力を入れたい。
- ・自己肯定感を高める取組やコミュニティ・スクールの市内全小中学校での設置を進める。
- ・不登校対策にも力を入れて取り組みたい。
- ・キャリア教育、本市独自のリズムジャンプにも引き続き力を入れて取り組んでいきたい。
- ・読解力の育成という課題に対しては、読書習慣の確立や読書環境の整備にもこれまで以上に取り組んでいかなければならない。

(次世代育成課)

- ・相談・支援体制の整備と社会参加の促進について、今後4年間で取組を進め、不登校やニート、ひきこもり等の相談内容に対応するため、相談や助言、支援活動を展開したい。
- ・鶴山塾の通塾になかなかつながらない場合や様々な原因により通塾が困難になるケース等への対応をしっかりと行いたい。
- ・家庭訪問等による継続的なフォローを行いながら、専門機関へつないでいく取組を進めたい。

(保健給食課)

- ・児童生徒の望ましい生活習慣の確立と心身の健康増進を、第3期計画への課題としてつなぎ、給食における残食の減少及び地場産材の活用にも引き続き取り組みたい。
- ・学校における感染対策を継続して行いたい。
- ・給食施設の補修等も適切に実施する。

(委員からの意見)

- ・不登校問題が津山市の抱えている問題として取り上げられているが、第3期でこの問題にしっかりと対応できているかどうか問われる点だと思う。学校教育の中でも次世代育成の中でも、未然防止と起こった場合の対応をきちんと第3期計画に位置付けて取り組むことが見えるような構造になっているのが良い点だと思う。
- ・私たち教員はたくさんの課題がある中で、1つ1つを理解し職員に伝えていくことが大事だと思う。時代がどんどん変わっていき、学びの劇的な変化に柔軟に対応しながら、自信やつながりをどのように育んでいくかがポイントだと思う。教員も二極化のような年齢構成になっているので、若手の育成に力を入れながら、いかにそのポイントを引継ぐかが重要だと思う。
- ・主体的な学びを展開しようと思ったら子どもとの信頼関係が無いとできないので、子どもと先生、子ども同士のつながりを学ぶため、校内OJTをしっかりと機能させてほしい。
- ・子どもとの関わりは現場でしか学べないことがあるので、学校現場でのOJTを機能させるには、ミドルリーダー的な校内研修の核となる層を育てる手立ても必要だと思う。
- ・地域の核となる公民館とつながっていれば良いと思う。増加傾向にある不登校の児童生徒にとって、鶴山塾だけではなく、公民館も子どもたちの居場所になる可能性があるのではないかな。

(3) その他

(事務局説明)

- ・12月定例会市議会の質問答弁について
12月定例会市議会での計画に関する質問と答弁の内容を報告
- ・今後のスケジュールについて
今後の計画策定スケジュールを説明

5. その他

検討委員からあいさつ

- ①この計画に書いてあることを1つ1つ丁寧に実践していくことが大事だと改めて思いました。これをいかに校長会としてつないでいくかが重要だと思います。
- ②子どもたちのために一生懸命作った計画をたくさんの保護者の方に理解していただくことが1番大切だと思います。保護者も学んでいかなければならないと感じています。
- ③ICTを使うと距離は関係なくなるので、他校や関係機関からのサポートが可能になると思います。色々と大変だと思いますが、ICTを道具として活用していただければと思います。また、実際に行って肌で感じるもの、リアルな物事も大切にしてほしいと思います。
- ④新しくできた幼稚園ですので、郷土愛という観点からも、地域を愛するために地域を

知るところから始めないといけないと思いました。ICTを園の情報発信に活用できたらと考えています。

⑤教育に関する様々な問題には、まず人と人とのつながりという基盤がしっかりとあることが重要だと感じました。また、学ぶことは楽しいと思えるような教育を展開できるように、どこにウエイトを置いてどのように実践するかが大事だと思いました。

⑥この計画はできたら終わりではなく、市民の皆様に理解していただくよう、広報活動をしっかり行う必要があると思います。また、この計画の担い手は学校現場となります。学校が実現に向けて取り組むに当たり、先生方に対する周知はもちろん、しっかりとサポートすることが市教委の役割であり、重要な部分であると考えます。さらには、学校以外の方たちに学校教育を理解していただき、市民を挙げて教育への協力を得られるような工夫が求められていると思います。

6. 教育長あいさつ

7. 閉会